

中央区 ぶらり 地名めぐり

大倉山

昭和6年、大倉喜七郎男爵がここにジャンプ台を造った。それを札幌市へ寄贈する際、男爵の名にちなんで大倉山と名付けられた。

宮の森

明治3年に秩父宮、4年に高松宮がスキーをしたことから、昭和5年より宮様スキー大会が開催されるようになり、それにちなんで名付けられた。

円山と藻岩山の深い関係

現在、展望台やロープウエーのある藻岩山は本来見張りをする山で、実は、アイヌの人々は円山の方を「モイワ」と呼んでいました。

「モイワ」はアイヌ語で小さな岩、静かな岩山という意味があり、神聖な場所とされていました。

明治4年、開拓使岩村判官がモイワに札幌神社（北海道神宮の前身）を設置し、京都の円山にあやかって「モイワ」を円山、ふもとの村を円山村と名付けたため、その際、「モイワ」という名前は隣にあった見張り山（アイヌ語で「インカルシペ」という）に移ってしまったのです。

その後の明治39年、円山村は山鼻村と合併して藻岩村となり、藻岩村大字円山村と称していましたが、さらに昭和13年に藻岩村が円山町となりました。

つまり、モイワという名は一度元の場所に戻ってきたのに、再び消えてしまったのです。なんともやこしいですね。

双子山

円山の南端から藻岩山へ延びる所に二つのコブがあり、これが双子山と呼ばれていたところから名付けられた。

西線

（西14丁目と西15丁目の間を走る市電通り沿いの通称）

以前、市電は数系統あり、現在の路線は当時、中島公園の西側を南北に走る「山鼻線」と15丁目通りを南北に走る「山鼻西線」とに分かれていた。

その後、2路線がつながり現在の形になった後も、西線という名が通称として残った。

盤溪

もともとこの地は発寒川の水源地の一つで、アイヌ語で川下を意味する「パンケ」がなまったもの。

伏見

明治4年、4戸が入植したので「四軒村」と呼ばれていた場所で、明治40年、京都伏見神社の分霊を現伏見稲荷神社の場所に祭ったことから、地名も伏見と改めた。

すすき野VSしずか野？

大正末期、今の札幌医大辺りから南7西14にかけて、草や木がたくさん茂った沢がありました。特に南5西15付近が深く、物を投げ入れると見えなくなるほどでした。

そして、夜になると全く人の通らない静かな場所だったので、それと反対ににぎやかなススキノに対して『しずか野』と呼ばれていたそうです。



昭和元年の薄野交差点
（札幌市写真ライブラリー所蔵）

地名の由来を知ること、その土地に住んでいた人々の生活や考え、文化に触れることができず。ここでは、区内すべての地名を紹介することはできませんが、古くから残る地名をたどって、ちょっとした歴史の散歩をしてみよう。